
議事録 東海村男女共同参画推進委員会（令和7年度第1回）

1 日時 令和7年4月17日（木） 18:30~20:00

2 場所 真崎コミュニティセンター 会議室

3 出席者

- ▼ 東海村男女共同参画推進委員会委員 5名 欠席：渡部委員，佐藤委員，鈴木委員
※委員会名簿参照。谷川委員が新任（北野委員が退任）
- ▼ 山田村長，池田村民生活部長
- ▼ 村民活動支援課 伊藤課長，石井課長補佐，大道係長，坂本係長，鈴木主任

4 あいさつ（山田村長）

- ・ 日頃より男女共同参画推進に御尽力いただき感謝する。
- ・ 第5次東海村男女共同参画行動計画は今年度で終了し，次期計画を1年かけて策定するので御協力をお願いしたい。
- ・ 国，県，市町村がそれぞれ法律や条例で実施しているが，どこまで意識が変わってきたかが計りがたい。
- ・ 今までは，男女共同参画推進事業所を表彰して他の事業所が追随するようにすることで事業所の活動を促すことや，女性活躍推進として，もっと女性が活躍できる環境を整えることを主に行ってきた。
- ・ これからの時代は男女問わず，LGBTを含めダイバーシティの時代で，誰でも活躍できるような社会をつくっていく必要がある。それをどう皆さんに理解してもらうか，これといった妙案は難しいかもしれないが，啓発・普及が第一ではないかと考える。
- ・ 東海村役場の管理職の男女比を見ると，部課長50人中，女性は10名程度。役場もまだまだ遅れているが，そのようなところからも変えていきたい。
- ・ 今年度，計画を作る中で皆さんにアイデアをもらいながら，第6次に向けてさらに推進していきたい。

男女共同参画推進委員 高橋委員長

- ・ 時代の流れで第5次行動計画ではできなかったことも，第6次行動計画では柔軟な対応をしていかなければならない。
- ・ この委員会では，村民に一番近い存在である私たち委員の知見で，村長に実効性のある提案をしたい。

5 次期男女共同参画行動計画の策定について（諮問） ・ ・ ・ ・ **資料No.1** ・ **資料No.2**

次期行動計画の策定にあたり，東海村長から東海村男女共同参画推進委員会に諮問（高橋委員長に諮問書提出）。※東海村男女共同参画推進条例第9条2

6 議事（進行：高橋委員長）

（1）次期男女共同参画行動計画の策定について・・・・・・・・・・資料No.3・資料No.4

資料について事務局から説明を行い、質疑応答・意見交換。

（主な意見） ⇒：事務局回答

・第6次行動計画に向けて、計画を、“分かりやすくしたい”ということ、「まちづくりの羅針盤」をもとに地域幸福度指標（※）とリンクするようにしたいということで理解した。

・今まで設定してきた指標を、地域幸福度に換算する手法はどのように考えているか。その数値を第6次行動計画に使えるようにするにはどうすればよいか。

⇒第5次行動計画には、中長期的な目標が掲げられていない。今までの個別の成果指標とは別に、全体的な評価を地域幸福度指数で見ることができないかということを考えている。デジタル庁が公表している地域幸福度は“Well-Being 指数”とも呼ばれており、「暮らしやすさ」と「幸福感」を数値化・可視化する指標で、全国の自治体ごとに状況（ダッシュボード）を確認することができる。複数のカテゴリーからなり、その中に「多様性と寛容性」があるが、これが男女共同参画推進に関連性の深い指標にあたると思う。個別にどの取組みが良かったかということを図るというよりも、取組みを進めた結果、村の幸福度がどのように変化かを主観的・客観的な調査に基づき、確認することができる。「まちづくりの羅針盤」の主管課（政策推進課）が、毎年度、地域幸福度を確認する予定で、それらの情報提供と連携し、村の「多様性と寛容性」の指数を確認しながら取組みを進めることができるのではと考えている。

・個人的には、若い人の意見を取り入れることが大事だと考える。

・幸福度指数は現在いくつか。毎年出ているものなのか。

⇒デジタル庁が公表する東海村のダッシュボードに示されている「多様性と寛容性」の指数は、主観データ 57.5／客観性 43.3（2024 年度版）である。基本的には毎年更新されるもの。

・資料3の2ページで、協議をしていく関係課には子育て支援課はないのか。また、資料4の3～4ページについては、この数字を見たときにいまだに男女差別があると読むのか。一定程度解消されているとしたら、女性が仕事をやめる主な原因は、結婚出産が上位を占めているので子育て支援を行った方が、女性の職場復帰に繋がる。「子育て」の指標も男女共同参画の指標にしてはどうか。

⇒特に関連する指数として「多様性と寛容性」を考えている。男女差だけではない部分も含まれるだろう。「子育て」の指数も関連性が深く、その他の指数も確認していく必要があるかもしれない。今後、中長期的な目標を考える中で検討していきたい。

※デジタル庁ホームページ「地域幸福度 Well-Being 指標」 参照。

<https://well-being.digital.go.jp/>

（2）現行男女共同参画行動計画の進捗について・・・・・・・・・・資料No.5～資料No.7

資料に基づき、事務局から説明を行い、質疑応答・意見交換等の協議を行った。

（主な意見や質疑）

- ・親子の料理教室に参加したときに時間が足りないと感じた。子どもをメインにやらせたいが時間がなく結局親がやった。また、親1人子1人ではなく父母や兄弟など、家族で参加できるとより楽しいと思う。
 - ・今回の募集は親1人子1人か。スペース的に可能ならばぜひ家族で申請できるよう検討してほしい。
- ⇒ヘルスマイトジュニア事業と連携しており、会費や人数などは合わせる必要がある。ヘルスマイト事務局では親1人子1人としている。
- ・昨年のエンジョイサマースクール（ESS）のパンフレットを見ると、6月に配布して7月に実施している。前もって周知することは難しいのか。
- ⇒ESS担当課（生涯学習課）に確認したところ、早く周知するのは問題ないが、申し込みは先着順ではなく抽選にしてほしいとのことだった。6月上旬を目途に周知を予定している。
- ・ESSのスタンプは対象外か。
- ⇒対象内である。ヘルスマイトジュニアのスタンプカードももらえる。
- ・ヘルスマイトジュニア事業の一環に今回のイベントが入ることか。
- ⇒ヘルスマイトジュニア事業は例年と同じように行い、番外編のような形で今回の滝村先生の親子料理教室を企画した。
- ・子ども会をやっている立場として、安全に実施できるよう、包丁の使い方（出しっぱなしにしない）など、家庭でも使えることをぜひ取り入れていただきたい。
- ⇒ただ料理をするだけでなく、安全に調理するという事で講師と協議する。
- ・ネットの時代であり、自分で調べようと思えばできるが限界がある。先進的な自治体、NPOなどの活動から、アイデアが膨らんでくることもある。近場でもいいので見に行くなどするといいい。会議室で机を突き合わせて話し合ってもなかなか難しい。
- ⇒先進的な企業や自治体の事業を見に行くのはよい。幅が広がると思う。

7 その他

●県広報紙「ぼらりす」への村内推進事業所の掲載について

村内の企業「株式会社ヒューマンサポートテクノロジー」がいばらきダイバーシティ宣言企業として掲載されたことを紹介。

●次回の委員会について

第2回男女共同参画推進委員会は6月に開催予定。議事録は、委員へメールで配信し、確認後に村公式ホームページに掲載する。

以上